



細本寢覚程 上

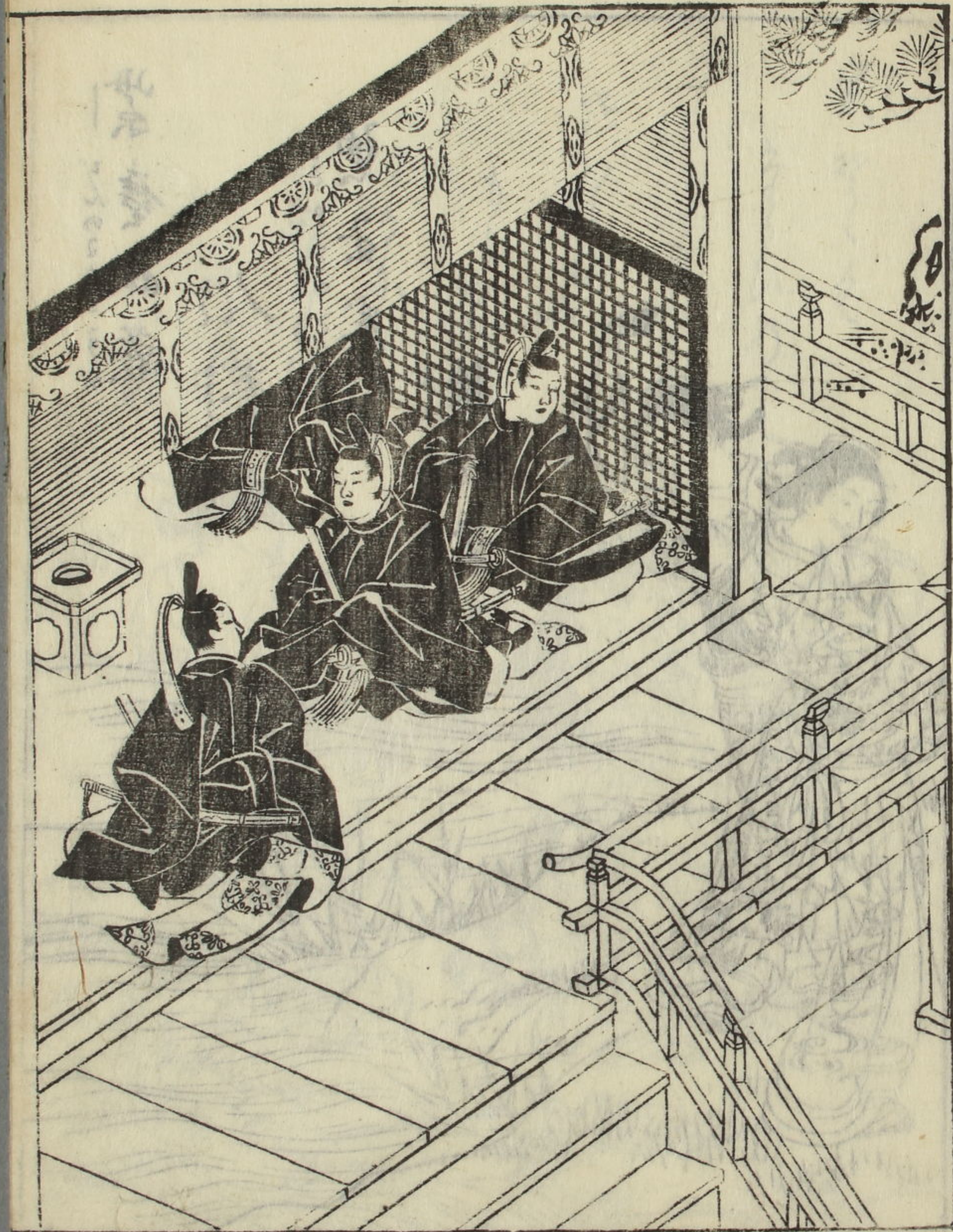
^13
4471
1



繪本寢覚種序

詩ハ人心の物ニ感^んじて聲^を以^て發^せる^ること
 往^も又^も今^も多^くれ詩^をう^や歌^のに^てお^もは^し
 公任^の卿^は精^に撰^り乃^ち詞^を詠^ひ和^漢の妙^を声^を
 是^れハ^も河^を勢^の往^を附^を今^も其^の聲^をと^備
 昔^は明^の人^も少^く書^を林^乃需^を頻^にる^に拍^と筆^を
 佳^作を^けけ^り一^本様^本に^て往^り往^り繪^本
 寢^覚種^とる^んの^利





おつて
 吹_フ 借_カ 用_ヒ 不_レ 待_マ

芳_ハ 菲_ハ 之_ノ 候_ト

近_ヒ 春_ノ 乍_ハ 交_ハ

将_マ 希_ハ

雨_ハ 露_ハ 之_ノ 恩_ト

紫塵嫩蕨

人奉平

碧玉寒蘆

錐脱囊



岩花

夕乃

夕乃

夕乃

夕乃

夕乃

夕乃

夕乃

夕乃





とまのわにけいしんはくたをまてりばせよ
 花下忘席因羨奈
とんのまへすゆふまにこれよりのをせ
 樽希勸碎足春風

まはかぬまはて

まうねむざうり

まうり のごもれ

人の わいれ





暮 ゆづり
 隨 ちかぐらて
 飛鳥 とび
 一時 ひととき
 啼 なげ



朝 あした
 踏 ふみ
 落 おち
 花 はな
 相 あい
 伴 とも
 出 い



有^{あり}特^{とく}苗^ぼ
こゝろをいふ
 立^た意^い取^と
たよりなきこと
 園^{えん}
まをす
 任^{まか}脚^{しやう}行^{ぎやう}
 赤^{あか}の^のま^まを
いふ
 わ^わ七^{しち}免^{めん}靴^{くつ}
 赤^{あか}い^いわ^わの^のな^な
 ほ^ほま^ま
 け^けり
 くれ





堂火乱飛
けいんか らんぱい
 秋已迫
あきまはにちか
 辰星早没
あきぼしはやぞく
 兼神長
あまのあき
 清女もあはれぬまの
 かりしり乃
 芳よりあき移る
 ねのいさりけき





わさき

いさく

高世

高世 全銀山拵扇子



盛夏不消雪

終年雪風

秋生衣

花月入

懐中

君の

懐中

君の

懐中



鶏の早やみんあでわのろくしんが
 鶏 漸 散 間 秋 色 女
ついでに
 常 越 處 晚 聲 微

く化つてふ

そのぞうけいさ

みゆ葉らふ

秋のほどり紙

けいぶと

ふし



懐
得

十
年
長

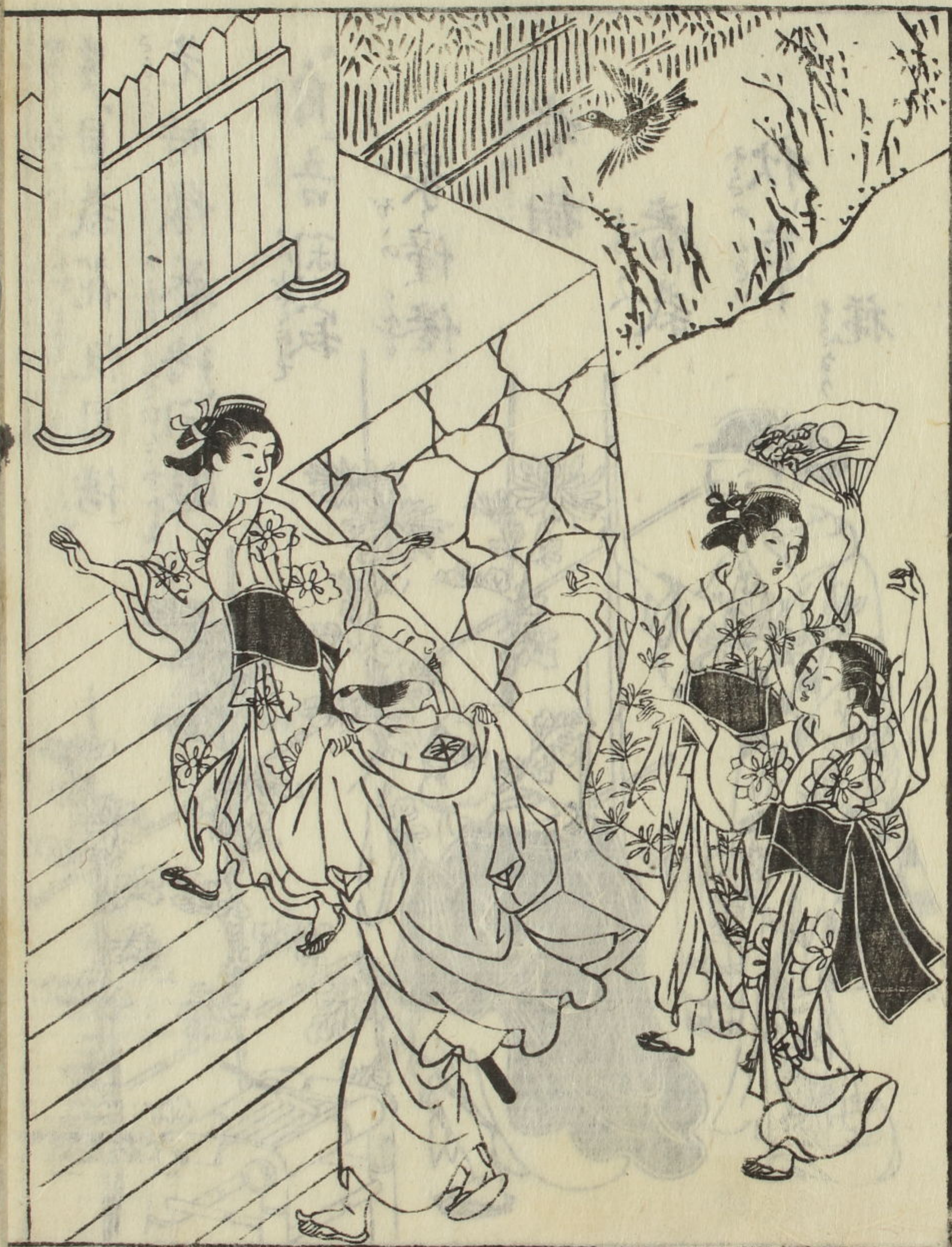
七
巧

竹
竿

新
工

新
糸

多
産



多見栽花悦目傍
先時豫養待闲遊

自五口闲寂

家僮倦

春樹

春栽

秋草

種



種

三冊之月

